

G-1 大学生及び主婦の結婚観、家庭観よりみた、家庭科-家庭の領域-の
女子栄養短大 ○安藤知子 問題矣

目的 家庭科教育と一言で言っても、その内容は複雑、且つ多岐に亘り、現在まで多くの研究と討議がくりかえされながら、未だに未解決な部分もある。こゝでは家庭科教育の出発点でもあり、一領域でもある「家庭」について、将来及び現在の家庭形成者の「結婚」「家庭生活」についての認識度をさぐることにより問題を明らかにすることを試みた。

方法 大学生及び都内主婦を対象にアンケートによる意識調査によつた。

結果 1. 大学生の結婚観及び家庭観は社会で一般的に述べられてゐる程、進歩的ではなく古い考へ方もかなり潜在してゐる。
2. 家庭生活はあまりにも身近なため意識化がむずかしい。問題が家庭の中に生じた時にはかなりほつちり、誰れかが認識し、しかも育つた環境、性別、年齢、愛情、経済、考へ方等によつてかなりちがひがある。家庭科教育-家庭の領域-の重要性、困難性をみることも出来る。